

川越ロータリークラブ 会 報 No.8

2025 年 8 月 26 日 第 3536 回例会 会場：川越プリンスホテル 5 階

会員数：105 名 免除出席者：2 名 正会員出席者：62 名 出席者：64 名 早退：0 名 出席率：60.95%

プログラム

点鐘（12：30）／（第3例会）それでこそロータリー・四つのテスト／ビジター・お客様紹介／卓話講師紹介／会長の時間／幹事報告／委員長報告／ニコニコボックス／出席報告／卓話／点鐘（13：30）〈司会：山崎SAA〉

幹事報告

2025-26 年度 幹事 高橋 哲彦

- ・配布物：会報、米山記念館館報（協賛者のみ）
- ・第 32 回ロータリー全国囲碁大会のご案内 11/8（土）
於：市ヶ谷日本基院
- ・川越まつりを楽しむ会のチラシご案内



会長の時間

2025-26 年度会長 吉澤 徳安

本日は、2025 年 10 月の『ロータリー章典』についてご説明します。2025 年 4 月『規定審議会』が行われました。これは、3 年に 1 度、RI 定款・細則の変更を審議しています。その審議会をまとめたものが『事務手続要覧』です。9 月に英語版、10 月に日本語版が出版されます。



ロータリーという集団は、組織規程と章典から成り立っています。章典とは、一般規定（ルールの規定）とクラブに関する規定です。この章典を変更できるのは、RI 理事会と RI 国際大会、規定審議会のみとなります。今回は、クラブに関する規定が変わりました。中でもクラブカルチャーについては、全文が変わりました。要点をまとめると、クラブに新しい文化を作しましょう、また、新しい価値観を設けましょうということです。その為には、ロータリークラブとしてファシリティや横のつながり、ネットワークを提供していきましように変更されました。それ以外はほとんど変わっていません。『ロータリー章典』の説明は以上とします。

委員長報告

親睦委員会（永島委員長） 8 月のお祝い

- 〈会員誕生日〉 原敏成、今泉博、石井成人、和田尚也、齋藤 充、山口 裕、五十嵐昭洋、沢田通、近藤武弘、鈴木崇生、高木寛和、川野邊智聡
- 〈会員配偶者誕生日〉 片山幸雄・貴恵、山田禎久・英理子、野溝守・将子、高山大輔・三代子、小林徹・綾子、菅田慎一郎・昌子
- 〈結婚記念日〉 中田庸司



次週卓話

イニシエーションスピーチ

山崎大二郎会員、細田智也会員

ニコニコボックス

●野村総合研究所取締役会長此本臣吾様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。楽しみにしております。〈会長、幹事〉

●此本臣吾様(野村総合研究所取締役会長)卓話楽しみにしています。<西澤、小杉、山崎(共)、神谷、相原、野溝、菊池、馬場(常)、藤井、西川、石井、戸口、住谷、齊藤(智)、中野(文)、小橋、小高、和田(尚)、新井、水村、近藤、廣瀬、高原、和田(喜)、長岡、荻原、井上、岩堀、中田(浩)、山田(哲)、山田(和)>

●昨日は小学生スナッグゴルフ大会が霞ヶ関カンツリー倶楽部で行われ、クラブから多額の協賛金をいただき、また多くの会員の皆様にはボランティアとしてご助力いただきました。ケガもなく大盛会でした。誠にありがとうございます。<藤井>

●中札内で相原求一郎美術館へ行って参りました。久しぶりの出席で申し訳ありません。<原>

●今年も川越まつり栈敷席を開催します。昼の部はインフルエンサーYouTuberと「川越まつりを楽しむコース」です。夜の部は特別観覧コースで小川菊のうなぎのフルコースです。是非ゆったりと観覧下さい。<蓼沼>

合計41,000円

卓話

講師：此本臣吾(このもと しんご)様
野村総合研究所 取締役会長

<ご経歴>

紹介：鬼頭会員

東京大学工学部を卒業、同大学院で修士課程を修得し、1985年6月に野村総合研究所に入社。台北支店長、産業コンサルティング部長などを歴任され、同じ時期に吉澤会長が野村香港の社長でいらしたことで、お二人の間に良きパートナーシップが築かれたとのこと。2016年に代表取締役社長就任、2019年から会長兼社長、2024年から取締役会長とされています。ソニーグループ社外取締役、キリンホールディングス社外取締役も兼任されるなど、多方面でご活躍されています。



演題：AI時代の新たな社会、生成AIとは何か
～未来はどう変わるのか～

当社は、1965年に設立され、今年60年目となります。コンサルティングとシステム開発IT

ソリューションの2つの事業を行っている会社です。売上の比率のうち、わずか7%がコンサルティング、93%はITサービスとなっています。

私は先ほどの売上比率7%の出身です。本日は標記テーマにてご説明をします。

まず、IT技術と生成AIの違いについてです。生成AIとは、自然言語で指示ができるということが決定的な違いです。今までのIT技術は特殊な技能を持ったプログラマーがプログラムを書いて、AIやシステムを動かしていました。しかし、生成AIは言葉で指示ができるので、あらゆる人々がこの技術を使うことができます。2017年から始まっている技術ですので、7～8年しか経っていませんが、世界を大きく変えようとしています。

生成AIとは、自然言語で指示をするとその答えを返してくれます。これは、AIが文脈を理解しているわけではなく、この言葉が出てきたら、その次に出てくる言葉で最も確率の高いと思われるものを繋いでいるのです。つまり、AIは文章の意味を理解しているわけではないので、間違っているか間違っていないかは判断できないのです。

このAIを使って、医療をどう進化させるかが注目されています。過去のあらゆる症例を読み込み対応していくことや、薬の開発において時間とコストを大きく下げられるので、投資効果が非常に出やすいです。また、教育分野も相性がいいです。



AIは事前学習をしてそれに基づいてアウトプットしています。囲碁や将棋などデータがあるものは非常に得意ですが、人間の動作をロボットにやらせるのは、とても難しいのです。AIは難しいことほど簡単にできますが、簡単なことほど難しくできません。したがって、ヒューマノイド型のロボットを作るのは、大変コストもかかるし、難しいことなのです。裾野の広い部品産業が必要で、それが出来るのは中国だけになっています。